

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470101286
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 銀河の詩
訪問調査日	平成19年8月20日
評価確定日	平成19年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470101286		
法人名	社会福祉法人 秀峰会		
事業所名	グループホーム 銀河の詩		
所在地	230-0051 横浜市鶴見区中央3-10-40 (電話) 045-508-2841		
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年9月30日

【情報提供票より】(平成19年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	84 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	綱島ホームケアクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に終結し、横の連携を強化するとともに人材の活用面にも力を入れている。ロケーションは鶴見駅からバスで3つ目、鶴見区役所、鶴見川に近い位置にあり、駅からも訪問しやすい地理にある。ホームとしては、常に入居者さんの心が休まるインテリアに工夫をし、アニマルセラピーも秀峰会は活用しているので利用者さんのつれてきた犬、猫も状況で受入れ、デイサービスに昼食を託すことでケアの時間の余裕を生み、実習生を受入れるなどの実践をしている。デイと一緒に散歩道の掃除も実施している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との連携は自治会に加入している。都市型の地域で周辺には企業やマンションが多いため個別な取り組みにならざるを得ず、個人住宅の方やマンションの管理人の方との点のお付き合いにならざるを得ず、今回の運営推進会議での地域密着の展開に期待している。地域設備の活用については鶴見会館で行われる体操教室やカラオケ教室に利用者が参加するなど活用が進んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については評価結果や評価のプロセスに於ける気付きについてカンファレンスで話し合い、アイデアを出し合い、良いアイデアを取り上げて取り組み効果をあげている。今回も評価結果や評価のプロセスに於ける気付きについて同様にカンファレンスで話し合い、取り上げ、活用を図って行きたいと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議につき鶴見区より開催に関する促しがあり、やり方についての指導を受け、10月中旬(予定)の開催に向けての打合せを8月31日に鶴見区高齢者福祉課と地域包括支援センターとの運営指針会議に出席して決定するなっている。運営推進会議のメンバーは自治会長、民生委員、利用者さん及びご家族、ホーム関係者でオブザーバーとして地域包括支援センターの方を予定している。主な討議内容はグループホームの紹介、活動報告を中心として行う予定をしている。都市型の地域であり、自治会等公的な組織を通じて別の側面での展開に期待している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族に関しては訪問の頻度にバラツキがあり、状況の伝わり方にも差があるのではないかと考え家族会を開催した。ご家族にはグループホームに親を預けたと云う負い目は心のどこかにあり、お互いに話し合うことで安心する面もあるようで有効であったと考えている。ご家族に関しては個別の状況ではなく共通の問題点を話し合せて効果があったと考えている。個人の状況についてはお手紙に写真を添えてお知らせしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携は都市型の地域であり、こまめな個々の対応を積み重ねている。この度はご近所の小学校から運動会へのお招きがあり参加した。また、デイサービスの人と一緒に汚れた散歩道の掃除を実施している。マンションの管理人の方のお付き合いの中でマンションの大型不要品の情報を頂き、ホームで使わせて頂いている。小学校の体験学習の受け入れや実習生を受入れなどを行い地域との密着を図っている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度の重点目標の一つに掲げている。「地域で生きる」「社会性」は独自の理念としてパンフレットにも載せ、実施している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、カンファレンス等機会があるたびに、理念に添ったケアをするように話しをしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の体操教室に参加、地域の方々との触れ合いの場となっている。夏祭り等を開催し地域の方をお招きし、ロビーでのバーベキューを楽しんで頂いている。また、デイサービスの人と一緒に汚れた散歩道の掃除を実施している。	○	できれば老人会に参加出来るよう働きかけて行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果から、「地域交流」、「施錠しない工夫」については、話し合いを持ち良いアイデアは取り組みがされている。		今回も同様に改善に活かして行きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は10月中旬(予定)の開催に向けての打合せを8月31日に鶴見区高齢者福祉課と地域包括支援センターとの運営指針会議に出席して決定するなっている。運営推進会議のメンバーは自治会長、民生委員、利用者さん及びご家族、ホーム関係者でオブザーバーとして地域包括支援センターの方を予定している。	○	運営推進会議は10月中旬に開催予定。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上記の定期運営指針会議には、今後も参加させていただき予定である。鶴見区との関係はデイサービスもあり親密な関係が維持出来ている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時にはご利用者様の様子を必ず知らせるようにしている。面会の無い方でも毎月お手紙をかい、一ヶ月の様子と写真がある時は一緒に、郵送している。お預かりしているお小遣いの収支もお手紙と一緒に毎月知らせている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からお話を聞くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は業務命令であり仕方が無いと思うが、離職はできる限り避けたいと考え、「楽しく、働きがいのある職場」を目指している。チームケアに徹することにより利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に於いても、新任研修、管理者研修、その他各種の研修が毎月あり参加している。要望があれば、外部研修にも参加させている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内に教育の体制があり、階層別教育の取り組みも充実している。グループ内での他ホームの実習も行われている。グループ外のホームを見学させて頂くこともある。	○	更に意見交換の場や勉強会があれば参加したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して頂けるよう、ご家族と相談し必要であれば一日体験を実施する。5月に1件体験を予定していましたが、前日にキャンセルとなり、実施はまだされていないが、今後必要があれば実施する。1Fのデイサービス利用からスムーズな入居などのケースも可能である。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御利用者は認知症がある為に混乱することがあり、援助が必要だが、生活をしていく上では喜びや悲しみは分かち合い、人生の大先輩として尊敬の念をわすれずに接し、良い関係ができています。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望はできる限り聞くようにしている。行動から、こんなことを望んでいるのでは・・と言うような事は、ご家族に相談したり、カンファレンスで取り上げ検討、実施している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	解決しなければいけない問題が起きたら。カンファレンスで解決策を話し合いケアプランにのせて、家族には説明し意見を聞いている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成するようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退院後の医療が必要な時には、訪問看護指示書を書いて頂き、訪問看護をお願いしている。受診、外出の際に移送サービスを利用する事がある。デイサービスの看護師、栄養士のアドバイスを受けられるのもこのホームの特徴である。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の希望を優先しています。かかりつけ医の方もいますが、ご家族と相談し訪問診療に変えた方もいます。その他専門医(耳鼻科、皮膚科)も家族を相談のうえその都度、対応しています。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所2年経ちますが、重度化、終末期にむけて、訪問医、訪問看護課と話し合いを持ち始めたところである。	○	年内中に医療連携をスタートする予定。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際もあからさまにトイレとは言わないように配慮している。自尊心を傷つけない声かけ、対応は特に指導をしている。接遇研修にも参加している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の決まりはおしつけない。本人の意思を尊重をするようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合った役割をもって頂き、皆さんで食事の準備をしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてあるが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆さんがその人らしく、生き生きと輝いて生活が送れるよう、バックグラウンドを検討し、それぞれが主役となれるよう、能力に合わせた役割を持っていただいたり、好きなことをアクティビティに取り入れたり、お一人お一人をよく観て支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば買い物や散歩にいったりする。希望がなくても順番に、皆さんに外に出て頂くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない開かれたグループホームを目指していますが、デイサービスと同じ玄関であり難しい面もある。今は試験的に時間を限って鍵をかけないようにしている。勿論、ご家族の了解は得ている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導・協力を得て避難訓練を実施している。		今後、地域のも協力してもらえるよう働きかけ、一緒に避難訓練を行えるようにして行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録して、少ない時は補うこともある。水分はいつでも飲んで頂けるよう手の届くところに置いてある。水分の少ない方には好きなものを少しずつでも飲んで頂いたり、夜間もお部屋に置くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように壁の飾りを毎月変えたり、お花は欠かさないようにしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際はご家族に話しをして、馴染みの家具、あると落ち着く物などを持ってきて頂き、落ち着ける部屋作りをしている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 銀河の詩
所在地 (県・市町村名)	230-0051 横浜市鶴見区中央3-10-40
記入者名 (管理者)	徳脇 博美
記入日	平成 19 年 8 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度の重点目標の一つに掲げている。「地域で生きる」「社会性」は独自の理念としてパンフレットにも載せている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、カンファレンス等機会があるたびに、理念に添ったケアをするように話しをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、家族会、ケアプラン変更のときには伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のマンションの住民の方とは、散歩のときなど気軽に声をかけあったり、不用品を頂いたりすることがある。	○ 気軽に立ち寄って頂けるような関係作り。 ○ 研修会(心配蘇生法とAED)を開催し参加を呼びかける。 ○ 年末に餅つき大会などを計画しています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の体操教室に参加、地域の方々との触れ合いの場となっている。	○ 老人会の参加
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	7月に第一回鶴見川の土手のゴミ広いを、御利用者と職員一緒に行いました。	○	ゴミ広いは定期的に行い事業所全体で取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果から、「地域交流」、「施錠しない工夫」については、話し合いを持ち良いアイデアは取り組みがされている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営指針会議は準備が遅れている。8月31日鶴見区高齢者福祉課と地域包括支援センターの連絡会に出席、運営推進会議について協力依頼をする。	○	運営推進会議は10月中旬に開催予定。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上記の定期連絡会には、今後も参加させていただく予定。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加、資料を他職員にも配布し勉強している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、職員には文書でしらせて、少なくともグループホーム内での虐待は無い。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、時間を充分とり、納得したうえでの契約をするようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を作っていないが、ご本人からの要望があれば取り入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはご利用者様の様子を必ず知らせるようにしている。 面会の無い方でも毎月お手紙をかいて、一ヶ月の様子と写真がある時は一緒に、郵送している。 お預かりしているお小遣いの収支もお手紙と一緒に毎月知らせている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を作っていないが、面会時に家族からお話を聞く。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回全職員が文書で要望や意見を提出する機会がある他、事業所内では、改善提案は積極的に募集があり、いろいろな提案が出され、取り入れられていることもある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の緊急時、急な要望などがあれば、随時話し合いで勤務の調整をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は業務命令であり仕方が無いと思いますが、離職はできる限り避けたいと、「楽しく、働きがいのある職場」を目指しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に於いても、新任研修、管理者研修、その他各種の研修が毎月あり参加している。要望があれば、外部研修にも参加させている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学させて頂くことはある。	○	意見交換や勉強会があれば参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事のストレスをためないよう、何でも話せるような雰囲気作り。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	積極的な取り組み、勤務態度はきちんと評価している。目的、課題をもって仕事をして欲しいと思い、研修会参加のよびかけや資格取得の案内を提示しています。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族やケアマネから相談を受けた時は、ご本人に見学に来て頂き直接お話を聞くようにしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	キーパーソンだけでなく、ご家族様が皆様納得して頂けるように、見学やお話しはする機会は何度でもつくります。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が求めている事、必要な事をよく考えている。難しいケースは他の事業所やケアマネに相談することもある。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して頂けるよう、ご家族と相談し必要であれば一日体験を実施する。5月に1件体験を予定していましたが、前日にキャンセルとなり、実施はまだされていないが、今後必要があれば実施する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御利用者は認知症がある為に混乱することがあり、援助が必要だが、生活をしていく上では喜びや悲しみは分かち合い、人生の大先輩として尊敬の念をわすれずに接し、良い関係ができています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会(6月30日)以来、ご家族とは距離が一段と近くなり、共に支えようという関係ができています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係は複雑なこともあるがよく話を聞き、これまで以上に良い関係が築けるように支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみの方や知人の面会はあるが、関係が途切れないような支援はとくにしていない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事席や外出の時の組み合わせなどは、楽しめるよに気の合う同士にしたりする。折り紙や手芸の時は、できる方が教え合っている場面をみることがある。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても、面会に行ったり、家族の相談を受けたり付き合いを断ち切らないようにしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望はできる限り聞くようにしている。行動から、こんなことを望んでいるのでは・・と言うような事は、ご家族に相談したり、カンファレンスで取り上げ検討、実施している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症のケアは生活歴、バックグラウンドがとても大事だと理解しています。入所時のアセスメントのみならず、機会があれば家族、知人からも話を聞き情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りには時間をかけ、状態の変化は逐一報告する。「有する力」出来ないと決め付けしないでなんでもやって頂くようにしていますが、御利用者様の力には驚かされるのが良くあります。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	解決しなければいけない問題が起きたら。カンファレンスで解決策を話し合いケアプランにのせて、家族には説明し意見を聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必ずしも現状に即しているとはいえない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が不十分で、せつかくの気づきが活かされてない。	○	気づきノートを作り、気づいたこと、考えられる原因、対応、結果を記録し。皆がそれを共有し、ケアに活かせるようにする。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退院後の医療が必要な時には、訪問看護指示書を書いて頂き、訪問看護をお願いしている。受診、外出の際に移送サービスを利用する事がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	鶴見区の主催の教室には、入所以前より通っているカラオケ教室に通っている。7月より体操教室に4名登録し通っている。	○	ボランティアの受け入れをしたい。消防署に協力をお願いし、救急対応の講習会(心配蘇生法とAED)を計画する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネとの連携が取れていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携が取れていない。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の希望を優先しています。かかりつけ医の方もいますが、ご家族と相談し訪問診療に変えた方もいます。その他専門医(耳鼻科、皮膚科)も家族を相談のうえその都度、対応しています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門ではないが、訪問DRには対応について相談はしている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の事業所の看護師に相談、助言をいただくことがある。	○	併設の訪問看護と医療連携をとるよう準備中。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時には、家族任せにしないで、病院に出かけ、主治医、リハビリ担当、相談員等相談をし、早期退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所2年経ちますが、重度化、終末期にむけて、訪問医、訪問看護課と話し合いを持ち始めたところである。	○	年内中に医療連携をスタートする予定。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	準備をはじめたところである。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は本人の困らないよう十分な話し合いを持ち、情報を提供している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	その介護の際に本人のプライバシーを十分に配慮し、		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際もめからさまにトイレとは言わないように配慮している。 自尊心を傷つけない声かけ、対応は特に指導をしている。 接遇研修にも参加している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御利用者様の得意なこと、好きなことは把握し、準備をして希望に応じて提供できるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちら側の決まりはおしつけない。本人の意思を尊重するようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの準備をするときには、本人を選んで頂く。鏡や化粧品なども準備しおしゃれに興味をもってもらおうにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合った役割をもって頂き、皆さんで食事の準備をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ、飲酒はご病気の方以外、日常的に楽しんでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録から、排泄パターン把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてあるが、		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人にとって必要と思われるときは、適度に休息を取り入れ、夜間よく眠れるように、1にちの生活のリズムをつくる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆さんがその人らしく、生き生きと輝いて生活が送れるよう、バックグラウンドを検討し、それぞれが主役となれるよう、能力に合わせた役割を持っていただいたり、好きなことをアクティビティに取り入れたり、お一人お一人をよく観て支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方はご自分でお財布を所持し、買い物に行った時に好きな物を買ったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば買い物や散歩にいったりする。希望が無くても順番に、皆さんに外に出て頂くようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	要望があれば、出来る限り対応している。家族と一緒に外食に行ったり、美術館、カラオケ等、行ける所にはどんな所でも連れて行きたいと考えている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族が断る以外は、要望があれば対応している。 手紙は年賀状は書いて頂く。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の面会の時は、それぞれのお部屋でゆっくりしたり、他の御利用者とお茶を飲んだり、一緒にゲームをしたりすることもあり、居心地のいい所と喜んで頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の及ぼす影響について全職員理解をし、拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない開かれたグループホームを目指していますが、今は試験的に時間を限って鍵をかけないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在の確認方法など取り決めが無い。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	食器洗い用洗剤などは使用しない時は手の届かないようにしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんな些細なことでも気づいたことはヒヤリハットに記録、事故を未然に防ぐ取り組みを心がけている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルはあるが、訓練は行っていない。	○	定期的に訓練を行う。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	協力をもらえるような関係が出来ていない。	○	協力をもらえるよう働きかけ、一緒に避難訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	電話は家族が断る以外は、要望があれば対応している。 手紙は年賀状は書いて頂く。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	どんなことでも報告、申し送りノートに記録、日中ならば併設の事業所の看護師に相談し受診につなげる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できるように薬ファイルを作っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のため毎朝ヨーグルトを摂って頂いている。 排便チェック表を確認し、下剤を調節しできる限り自力で排便できるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアと共に、定期的に訪問歯科による口腔ケアも実施している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録して、少ない時は補うこともある。 水分はいつでも飲んで頂けるよう手の届くところに置いてある。 水分の少ない方には好きなものを少しづつでも飲んで頂いたり、夜間もお部屋に置くようにしている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めのあるものもあります。ノロウイルス対策は徹底しています。	○	MRSA, 肝炎の勉強会の開催。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生管理は徹底しています。 まな板、布巾の毎日の消毒の他、冷蔵庫の掃除は曜日を決めて実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には植木や花を植え、近隣の人が立ち止まっていたけような工夫はしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように壁の飾りを毎月変えたり、お花は欠かさないようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングとそれぞれ落ち着ける居場所がある。フローアから居室まで人目で見渡せるので、皆さんの状況を把握し、孤立しないように配慮している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際はご家族に話しをして、馴染みの家具、あると落ち着く物などを持ってきて頂き、落ち着ける部屋作りをしている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>起床の喚気は徹底している。 冷暖房もその人に合わせ、外気温と差がないように設定している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できる限り、安全に自立した生活を送れるよう、てすり、歩行器や入浴チェアなどの介護用品も活用している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレには目印をつけたり、日時がすぐわかるカレンダーなど混乱しないよう考えている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダには四季折々の花を植えて楽しんでいる。水やりは御利用者様の日課となっている。天気の良い日はベランダでお茶をするのが皆さんの楽しみです。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)